

令和6年度 第3回 碧南市地域自立支援協議会 会議録

1 日時

令和7年3月7日（金）午前10時から午前11時50分まで

2 場所

へきなん福祉センターあいくる デイルーム

3 出席者

(1) 委員 19名

碧南市社会福祉協議会 中川 英治（委員長）

碧南市手をつなぐ育成会 三浦 志朗（職務代理）

日本福祉大学教授 青木 聖久

碧南市身体障害者福祉協会 鈴木 たか子

刈谷公共職業安定所碧南出張所 永田 吉則

愛知県衣浦東部保健所 後藤 恵子

愛知県立にしお特別支援学校 早川 浩史

親子の会「カラフル」 鈴木 由記

身体に障害のある子の親子の会「すまいる」 永井 美幸

ほっとまんまピアサポーター 杉浦 有美

碧南市農業委員会 永坂 邦男

スギ製菓株式会社 永坂 峰広

西三河南部西障害者就業・生活支援センターくるくる 川村 顕治

刈谷病院 水野 美香

サンフレア 高松 有美

就労センターオアシス碧南 中根 祐子

WHJ相談支援センターメビア 浅野 将克

ARTIST JAPAN 森脇 友理

特定非営利活動法人 ジェイアンドビー（圏域アドバイザー） 鈴木 康仁

(2) 事務局

福祉こども部長 深津 広明

福祉課長 鈴木 善三

福祉課社会福祉係長 山本 昌弘

福祉課社会福祉係主事 畠山 和也

福祉課社会福祉係主事 矢野 友也

(3) 基幹相談支援センター（碧南市社会福祉協議会）

地域福祉課地域福祉係長 古川 裕隆
地域福祉課地域福祉係主査 小島 誠司
地域福祉課地域福祉係主事 坪井 優佳
地域福祉課地域福祉係主事 長谷川 祥子
地域福祉課地域福祉係主事 天野 好美
地域福祉課地域福祉係主事 久村 明弘

4 傍聴者

なし

5 議題

- (1) へきなん障害者ハーモニープランの進捗状況について
- (2) 各作業部会の取組状況について
- (3) その他

6 議事の要旨

- (1) あいさつ
- (2) 議題

ア へきなん障害者ハーモニープランの進捗状況について

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

委員：地域生活への移行支援、地域生活支援拠点等の強化、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築、長期入院者等の地域生活への移行支援については関連する項目であるため、各項目の関連を意識して整備を進めてほしい。

事務局：関係機関や基幹相談支援センターと連携し対応していきたいと考えている。

委員：体験利用や施設入所支援、グループホーム、訪問看護の事業所等、様々な地域の資源と協力して取り組んでほしい。

会長：令和6年4月に医療保護入院の手続き等が改正された。医療機関に影響があったか。

委員：市長同意入院は増加していない。しかし、同意が困難な家族関係の患者について、市に相談しやすくなった。

イ 各作業部会の取組状況について

各作業部会の代表及び基幹相談支援センターが会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

委員：一人暮らしに向けた宿泊体験の利用者数の実績は。また、周知方法は。
事務局：宿泊体験について、問い合わせはあるものの、実績は1人である。周知は障害福祉サービス利用者に事業者を通じて行っている。

委員：医療機関との連携についてどのような意見があるか。

事務局：連携が必要な場合はやり取りができていると感じる。しかし、医療と福祉の双方がお互いに分かっていない部分もあり、今後、連携の充実を図る必要性は感じている。

委員：病院が協力できることがあれば一緒にやっていきたいと考えている。

委員：家族の立場として、医療は現実を知る機会。福祉は客観的に見て判断してもらう機会である。親として思うのは、医療の現場では何ができない、何ができるかを判断するところ。福祉は、これができる、こうしたらできるという前向きな言葉がかけられる場所であると感じている。

委員：青年会議所との関わりについての報告があった。どのようなきっかけで関わりを持ったのか。

委員：委員自身が青年会議所に所属している。障害者雇用を進めていく機会として関わりを持った。

会長：令和7年10月からの就労選択支援について情報共有できることがあるか。

委員：障害者それぞれに特性や強み、弱みがある。強みを把握し、自身に合った仕事を行うための支援である。就労サービスから一般就労に移行できるように、さまざまな施設において一般就労を意識した支援をしてもらえるとよいと考える。

ウ その他

事務局より次年度の会議日程について報告。

7 まとめ

圏域アドバイザー（特定非営利活動法人ジェイアンドビー 鈴木 康仁 氏）より、アドバイザーを今年度末で退任する旨の報告があった。今後は相談員として仕事を行っていききたいとの発言があった。

学識経験者（日本福祉大学 青木聖久 教授）より、総括として以下の4点の話があった。

1 伝える、伝わる、つながる

伝えたつもりでも伝わらないことがある。相手を思い、どうすれば伝わるのかを考えることが大切である。

2 碧南オリジナルの地域包括ケアシステム

ストレスのない人はいない。メンタルヘルスは様々な人の共通の問題である。「にも包括」は難しく、分かりにくい話である。精神保健を論点にエッセンスを地域包括ケアシステムに入れ込むことで碧南オリジナルの地域包括ケアシステムを作してほしい。

3 豊かな暮らしを送るためにみんなが主役

一般企業で働く障害者が、非常に笑顔である。また、暮らしが豊かになるのを実感する。消極的理由で企業が雇わないといけないのではなく、働かないともったいない。また、家族支援は本人支援につながる。みんな主役である。

4 親なき後を知ること

親なき後に備えて、本人が社会的資源を利用することに慣れておく。様々な制度を知り活用してほしい。

以上